麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属　獣医学科　　職階　講師

氏名　井上　真紀

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1．教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
2．教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
3．教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
4．教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・毎年
5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6．学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・毎年
7．指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年
8．今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３年

1．教育の責任　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2025年2月

獣医生理学実習IIでは獣医師として理解しておかなければならない体の仕組みについて、人体や動物を使った実験結果を考察することでその理解を確実なものにさせるとともに基本的な仕組みだけでなく、生理的な範囲で生体の反応はバリエーションがあることを理解させるようにしている。

2年次の獣医療倫理・動物福祉、および5年次のOSCE医療面接事前実習では獣医師として他の人とのかかわり方、動物との向き合い方において独りよがりにならないように、共感の姿勢を身につけてもらう努力をしている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医療倫理・動物福祉（分担）	獣医学科	必修	2	150
獣医生理学実習II	獣医学科	必修	3	140
OSCE医療面接事前実習	獣医学科	必修	5	140
獣医学特論II	獣医学科	必修	6	1
卒業論文	獣医学科	必修	6	1

2．教育の理念　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2025年2月

獣医生理学実習IIでは、下級の学年では学生はただ暗記することが主体の学習になっているため、それに加えて自分で考え、理解できる学習にさせる。教科書を見て教科書的な標準的な機序しか暗記しないというのではなく、生体の反応にはバリエーションがあり、そのバリエーションも実験誤差などではなく、すべて身体の調節のための根拠のある反応であることを考えられる学生にする。

獣医療倫理・動物福祉および医療面接実習では、獣医師としての基本姿勢、動物に対する福祉的態度を理解してもらい、これからの獣医師としての倫理的福祉的態度を身に着けてもらう。

３．教育の方法　対象期間：2024年4月～2027年3月　更新年月：2025年2月

獣医生理学実習IIでは、実習での実験データは失敗したらやり直しをすることで、最終的に失敗のないデータを得させて、それを考察させる。失敗データの場合、自分のデータでは考察できないので、教科書を見て教科書的な標準的な機序しか考察として書けない。しかし、生体の反応にはバリエーションがあり、そのバリエーションも実験誤差などではなく、すべて根拠のある反応をしている。従ってバリエーションは生理学的に説明ができるものであることからそうしたバリエーションのあるデータをそれぞれに持ち帰らせて、それをきちんと考察させる。そのレポートを提出させた後に考察の説明を行い、自らの考察が的を射たものであったのか、見当違いだったのか考えてもらうことで理解を深めてもらうようにしている。

また、獣医師としてはチームで働くことを身に着けておく必要があるので、各実習項目で班員が協力してデータを取得するように促している。項目ごとに別の担当者を班で決めて、担当者がその項目のリーダーとなって班員全員で実験に取り組むやり方を取り入れている。これにより積極的な誰か一人が実験をして他は見ているという状況にならないようにしている。

獣医療倫理・動物福祉の授業では、獣医師としての基本理念を講義するなかに、実際に事例を多く紹介して、獣医師としてよくない対応、良い対応や動物に対してのよい姿勢を理解しやすいようにしている。こうした低学年での講義を踏まえて、5年次でのOSCE医療面接事前実習では模擬クライアントさん相手に獣医師として適切で共感的な対応ができるように実践してもらい、それを一般の方々に観察者として見ていただいて意見をいただいて、学生の気づきを促している。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組　**有**

実習科目は班で相談しながら実験をするのでグループワークになっている。実験後の考察説明を聞いたのちにグループディスカッションもさせている。
獣医療倫理については毎回その講義にかかわる内容の自分の意見を書く課題を出しているので、受け身で講義を受けただけではない、自分の意見を表明する機会にもなっている。

（2）ICTの教育活用　**有**

講義や実習時の実習の予習・方法・考察説明はパワーポイントを用いている。実験方法や実際の実験の動画も提示して説明している。講義時には学理の小テストを使って都度、学生の理解度を測っている。

４．教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

（１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

獣医生理学実習IIでは予習説明をして別日に実験をし、その実験のレポートを提出した後に考察説明の回を設けて、データの整理方法、考察が的を射ていたかどうか確認できるようにしている。レポートは各項目班で一つなので、自分が担当していない項目について勉強しないということがないように、実験した５項目から4項目選んでデータを提示して模範考察の文をもとに穴埋めあるいは間違い探しの問題で試験をすることで、考察にはどれだけ書かなければならなかったか理解させるとともに、問題ができたかどうかで理解度を測っている。これにより、おおよそすべての項目について学習せざるを得ない状況にしている。

（２）学生の理解度の把握

A

実験項目ごとにレポートを一旦結果までを提出させ、その後に結果のまとめ方を含めた考察説明を行い、自分の結果の表記法、解析が不十分なものは書き直して考察まで書いて提出をさせている。また、最後に実験項目の考察文を使った試験を行うので、理解度を判定できる。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

実験項目ごとにレポートを一旦結果までを提出させ、その後に結果のまとめ方を含めた考察説明を行い、自分の結果の表記法、解析が不十分なものは書き直して考察まで書いて提出をさせている。

（４）学生とのコミュニケーション

B

教員側は質問を歓迎しているが、なかなか質問に来ない。試験に落ちてからくる人が多い。実習では実験中は教員が巡回した時に質問をしやすくしている。ただ、最近の学生は単に試験の答えを知りたいだけで、その答えがどうやって出てくるか考えようとしないうえに、間違ったところを教えてくださいと言ってきていても、「あなたはこういうところが間違っていますよ」と言われるとネガティブなことを言われたと文句を言うので、対応しがたくなってきている。

（5）双方向授業への工夫

B

予習説明、実験、1回目レポート提出、考察説明、2回目直して考察まで書いたレポートの提出という順番で、タイムラグはあるが双方向の対応はしている。

実験後の考察説明時に実験中に気が付いたことも盛り込んで説明している。

（6）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

基本的な生理学について、実験を通じて必ず理解させるよう評価を厳しくしている。

5．学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

（1）授業評価アンケート結果の授業への反映

技術的なこと（マイクを使うのを忘れる、字の色が見難い）は都度改善している。
評価が厳しいことへの反発に対しては変更するつもりはない。

わかりやすい、勉強になったという評価もあるので、勉強したい人の役に立っていると考えている。質問しにくいという評価が散見される。実習中は正しいデータを持って帰らせることに集中していて、考察の質問に答える時間がなく、オフィスアワーを衆知するに留まっている。

授業評価に、意味不明なものや教員を貶めるような虚偽も見られるので、対応しがたい面もある。実習で何をやっているのか、何を学習すべきか全く理解できない学生が増えているように感じる。成績上位のものは役に立ったと言っている。

（2）（1）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

技術的なことへの悪い評価は減っているようである。厳しさへの文句は変わらない。「簡単に単位を取りたい」と考えている学生が増えているようなので、この意識を改革しないことには何も変わらない。

（3）（2）を踏まえた次年度の取組

なし

6．学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

これまで散々行ってきているが、学生の質の低下が著しい。今後の改革予定はなし。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

なし

7．指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

FD等は極力参加している。

8．今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

私のやり方を厳しいとして、やっていることを全く理解できず、その結果、成績も悪く、自分が出来ていないことを棚に上げて文句ばかり言う学生が年に少数だったのがかなり増えている。例えば、成績留年経験者で試験に落ちて質問に来た学生が「自分は自信があった、そんな解答を書いた記憶はない、(間違っていた問題について）そんな問題ありました？」などと発言していたりする。まったく自分ができていない自覚がなく、試験に落ちたのは教員の採点ミスと言いたいようであった。学生の学力低下と自覚のなさが著しい。そういう人も理解できるようにするのはかなり難しくなっている状況と考える。大学全体で学生に意識改革を求める必要があるのではと考える。

9．ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月　　更新年月：2025年2月

シラバス　学理教材　学理小テスト　レポート課題　考察記述会課題　試験問題